

13 対話的な学びを視点とした授業改善の実践



🔑 こんな実践

子供たちは「学校のトイレを新しくしたいという願いは、どうやって実現したの
だろう？」そんな疑問をもち、市役所や議会、税金の働きを調べてきました。単元
のまとめの場面で、グループで話し合いながら、トイレが新しくなるまでの流れを
関係図に表す活動を位置付けたことで、グループで対話しながら、学んできた知識
を、「順序性」や「関連性」に着目しながらまとめていった実践です。

実践学校 1 小学校

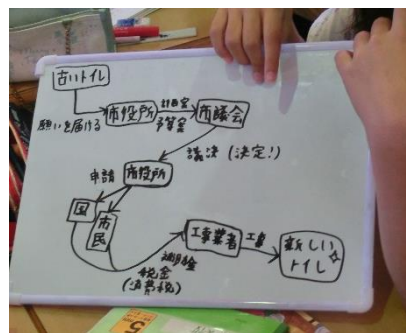
実践学年 6 学年

実践時期 10 月上旬

単元名 「わたしたちの願いをかなえる政治」

学習指導要領との関連 6 学年の内容 (1) ア(イ)(ウ), イ(イ)

○「これまでの学習で、『市役所』『市議会』『税金』の三つがかかっていることは分か
ったよね。でも、どうかかわったのだろう。つまり、『トイレを新しくしたい』とい
う願いは、どのように実現したのだろう。今日は、それをまとめましょう。」…授業
の冒頭、教師が呼びかけます。「どうやってまとめようか。」「この前の理科の時にや
ったように、矢印を使って、図にしていけばいいんじゃないかな?」「ああ、そうだ
ね。」…そんなやり取りをしながら、「トイレが完成するまでの流れを関係図に表そう。」
と学習課題が据わります。そこで教師は、「『トイレを新しくしたい』という願いをス
タート、『トイレが新しくなった』をゴールとし、この
間の流れを図にまとめていくこと。その際、『市役所』
『市議会』『税金』の三つは必ず使うこと。」と二つの
条件を示し、活動をスタートさせました。子供たちは、
学んできたことを振り返りながら、各機関の働きや、図
の中に書き入れた矢印の意味について仲間と会話しな
がら、どんどんと図を作っていました。

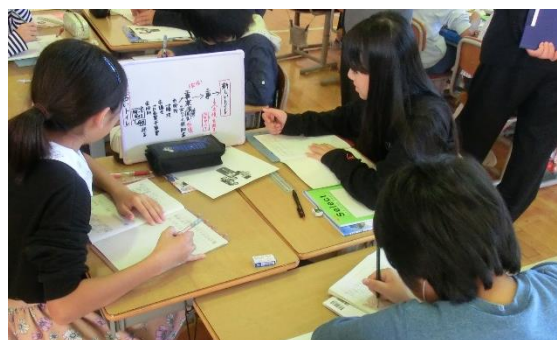


ここがポイント!

- ・『市役所』『市議会』『税金』の三つを使いながら、関係図に表す」というように、グループでの活動の見通しをはっきりもてるようにすることが大切です。
- ・子供たちの対話が促進できるようにするためには、「何について、どのように話し合うのか」を明確にすることが大切です。

○グループの関係図ができたところで、教師は、「グループ四人のうち、三人は、他のグループの関係図を見せてもらいに行きましょう。一人は残って、他のグループから来た人に、自分たちの関係図を説明してください。」と呼びかけました。残って関係図を説明する子供には、自分たちの作った関係図の整合性がとれているかを考えることを、他のグループに行く子供には、自分たちのグループとの違いに気付くことを、それぞれねらいました。そして、自分たちの班に戻ったところで、関係図を修正する時間を取りました。「となりのグループは、僕たちのグループにはない『補助金』があったよ。」「税金がどこから集まるのかがうまく説明できなかったから、この部分を修正しよう」「どう修正すればいいのかな。」など、さらに対話が進みました。

○修正の後、単元の学習問題「トイレを新しくしたいという願いは、どのように実現したのだろう。」に対する答えを書く時間を位置付けました。子供たちは、自分たちの作った関係図を見ながら、「順序性」や「関連性」に着目しながら書いていきました。最後に、何人かに発表を促すとともに、各グループの関係図を黒板に並べ、「みんなの願いを実現していく、この一連の流れが『政治』なんだ。」と、政治には様々なつながりがあることを捉えながら授業を終えました。



ここがポイント！

- ・「説明する」と「比較する」の二つの活動によって、自分たちの関係図を見直す必要感が生まれ、グループの対話がさらに促進されました。
- ・授業の終末では、関係図を言語化する活動を位置付けることで、これまでの思考・判断の過程や結果を表現することにつながります。

まとめ

- ・子供たちは、追究を通し、学んできた知識を、「順序性」や「関連性」に着目しながらまとめ、トイレが完成するまでの流れを『市役所』『市議会』『税金』の関わりで捉えていくことができました。これは、社会的事象の相互の関連、意味を多角的に考える等の目指す資質・能力の育成につながります。